

C. J. CORI は以前 Trieste の實驗所長をしてゐた人で今は Prag のドイツ系の大學の動物學教室の主任教授をしてゐる。Camptozoa 及び Phoronidea 其他を專攻としてゐて丘淺次郎先生と親交がある。また戦前 Rovigno の實驗所長であつた TH. KRUMBACH は今 Berlin の Meereskunde の博物館に居り、KÜKENTHAL によつて計畫及び發行された Handbuch der Zoologie の大著を同氏の没後編輯してゐることは皆人々の知る所であらう。

内 田 亨

## 砂中を潜行する巻貝と謎の化石

オーストリアの砂岩地方には昔から知られた謎の化石がある。それは岩の中に行きづまりになつたトンネル状のもので、これが何の化石であるか今以て誰も解決を與へた人はなかつた。

偶々ヴェネツナ大學の ABEL 教授がアフリカ東岸の砂濱で海岸の動物を観察中に奇妙な事實を發見した。それは *Bullia* と云ふムシロガヒ科に屬する小さい巻貝の行動で、砂濱が濕つてゐる時には其上を1分間に1米位の速力で跳躍しながら前進する。餘程活動性に富む貝で、濱に打ち上げられたクラゲをめがけて突進し之に集つて食す。併し干潮で砂濱の乾燥してゐる時とか又は驚かされる様な刺戟を受けた時には廣い足で殻を包みもんどり打つて砂中に潜り込みモグラの様に潜行して適當な濕度を求め或は刺戟を避ける。そして通つた跡にトンネル状の孔道を残して行く。この有様を視た ABEL 教授はこの孔道こそ砂岩中に残されてゐるトンネル状の謎の化石と全く同じものだと思つて、地質時代にも *Bullia* によつてこの様なトンネルが砂中に穿たれたものに相違ないと考へ、これで、さしに長い間の謎も漸く解釋が與へられる様になつた。(Science, vol. 79, no. 2046, pp. 9-10.)

瀧 庸

## はなしのたね

### 一匹の貝は一個體なりや?

HAECKEL は一個體を「少くとも二つの Metamer, 少くとも二つの Antimer よりなり、而してつねに多くの Organ 及び Plastid (二細胞) を含むもの」と定義した。これを讀んで小生は、然らば軟體動物の如く Metamer よりも、Antimer よりもならぬものは一個體とはなり得ぬものと考へたところ、HAECKEL 自身立派にこれに應へて居る。「多くの軟體動物の如く、Metamer よりならずしてたゞ一つの Metamer だけに相等するものは個體とみなすことを得ず」(Prinzipien der generellen Morphologie der Organismen. 1906. S. 132) 一匹の水母一匹の昆蟲は一個體だが、一匹の貝は一個體ではないといふのである。これなどはある方針を餘りに定式化すると如何に現實を離れ行くかを如實に示す好適例である。筆者をしていはしむれば、HAECKEL をして一匹の貝を一個體とみなさしめざりし原因は、全く彼の Promorphologie が餘りにも對稱 (Symmetrie) 一點張りであつたところにある。Symmetrie は確かに動物體制の一原理であらう。併し唯一の原理ではない。この他にもいくつかの原理 (例へば Spiral prizip) がある。この點 HAECKEL が事毎に擔ぎだす GOETHE の方が、HAECKEL より優かに現實の動物體制を正しく認めて居た、といへる。

### 種はペンデルリ、雜種はメンデル

“Arten pendeln, Varietäten mendeln” を譯して見たもの、この句は A. LANG の創製にかゝり、いはゆる DE VRIES-LANG の假説を簡潔にいひ表はしたものと名高い。語呂の合つて居るところが味増であらう。DE VRIES-LANG の假説とは『メンデル式分離は (同種) 雜種間では起るが、異種間では起らぬ』といふことである。今日では雜種間でも分離が起らぬ場合、異種間でも single segregation が起る場合が知られて居る故、上の假説従つて又上の aphorism は單なる歴史的意義をしか有せぬ。

## 動物學者の勤勉

えらい動物學者の中には随分勤勉な人々が多く『天才は勤勉』なる諺の萬更嘘でもないことを想はせる。だが世の中にはこの逆も真なりと獨りで決め込んで、勤勉によつて天才になりたがつて—それならまだよい、天才になつたつもりで一居る人々があるのは、これもどうかと思ふ。閑話休題、筆者が讀んだ數ある勤勉な動物學者の中でも KARL ERUST VON BAER の如きはその最たるものであらう。『1831 から 1832 にかけての冬であつたらう。雪まだ深き頃に彼は研究にとりかゝつた。而して初めて研究を中絶し研究室より數歩の距離にある塀を越えて外へ出たところ、麥は既に穂を有ち正に實らんとして居たといふ。』(W. HAACKE, 1905, KARL ERUST VON BAER, S. 26) 冬から夏まで一步も住居から外へ出ずに一つことを研究し續けて居たといふのだから驚く。

H. O. 生

## 三月例會講演要旨

スギ *Vellitor centropomus* (RICHARDSON) の生殖器と生殖法

檜 山 義 夫

三崎の水族館で人氣のある魚にネギノマラと熊さん達に呼ばれてゐるカジカ科に屬する數種の魚がある。名の依て起る所の肛門附屬物は雄に見られ、奇妙な形をしてゐるが、歐米ではカジカ科の他の魚についてこの附屬物が何であるかと云ふ議論が古くからあり、結局 penis ではなからうと云ふ事になつてゐて、本邦ではアナハゼ類のものと思はれる卵をアボヤの體内に内田惠太郎氏が發見し、附屬物は精液をホヤ中の卵に注ぐためならんとした。講演者はネギノマラの一様スギに就て生殖の方法を確め、その附屬物が penis なることを知り得た。先づ卵巢の section によつてその中に精蟲群を認めた。精蟲は卵が未熟の時から入つてゐて、卵が熟してもそのまま受精の現象は認められなかつた。又多數の熟せる雌の卵巢又は輸卵管中に受精した卵又は發育した胚を發見することも出来なかつた。然し熟した雌を人工的に産卵せしめると、卵は海水中で分裂を始めて育ち、遂には孵化して仔魚となつた。即ち、精液は雌の體内に注がれるも胎生とはならず、受精と發育は體外で行はれる故通常の硬骨魚の産卵と外見上變つた所がない。

雄の生殖器は複雑で mucous tissue を有する testes の特化せる部分、即ち作用的に epididymis の部分があり、貯精腔を有する複雑な導管がある。雌の生殖器は輸卵管がよく發達してゐる。雄にある肛門附屬物は構造上からも penis の型式である。

原則として一年魚で、精液の卵巢内注入が始まる時は雄は大きい雌は甚だしく小さく、卵巢も亦小で、精蟲は數ヶ月卵巢中にありて、雌が大きくなつてから産卵が始まり、雄はその時は testis が既に衰へてゐるか又は消失してゐる。

## 再生の量的研究

米 谷 俊 雄

材料として體長 23—34 mm の目高の成體を用ひ、之を次の 8 組に分ち、その鰭を基部附近の同一の場所に於て垂直に切除した。即ち A 組では右腹鰭を、B 組では左右の腹鰭を、C 組では右胸鰭を、D 組では右側の胸鰭と腹鰭を、E 組では右胸鰭と左脂鰭を、F 組では左右の胸鰭を、G 組では左右の胸鰭と右腹鰭を、最後に H 組では對鰭全部を切斷した。各組は 12—14 個體を含む。

實驗は昨年 10 月から 11 月に互る 42 日間繼續し、その間動物には一様に給食した。